術中体位：ベーシック

Patient positioning: basic

○佐伯 昇¹

○Noboru Saeki¹

1. 広島大学病院

1. Hiroshima University Hospital

手術体位は『手術操作が安全かつ容易となること』を目的として行われるが、『患者の安楽が保れ新たな身体損傷を引き起こさない』、『気道・ルート・モニタへのアクセス確保など安全な麻酔管理が行える』、という条件をも満たす必要がある。しかし、実際にはこれらは必ずしもすべてが同時に理想的なレベルに達するとは限らず、手術操作が困難となる、気道・ルート・モニタへのアクセスが制限される、失明や末梢神経障害などの合併症が生じる、などの状況に陥る場合がある。専門医を取得する際に、手術体位に関して実行できるレベルに達すべきものは1) 代表的な体位をとることができること、および、2) 坐位についての利点と問題点、空気塞栓の診断・治療、体位に伴う末梢神経障害についての転帰および予防法、について説明できることとなっている（日本麻酔科学会教育ガイドライン）。これらの中には施設によっては実施される可能性の低い手術体位も含まれると思われるが、麻酔科専門医として最低限到達するレベルについては再確認しておく必要がある。